

# 長田下地域 振興会だより 第19号

2014年(平成26年)4月10日発行

## 3/9(日) 長田下地域 ふれあい発表会

3月9日に平成25年度長田下地域ふれあい発表会を開催しました。この集会は2年ごとに行うもので、今年では中集会所が会場。当日は、立春後の寒さの残る朝ではありましたが、晴天に恵まれ、9時頃には80名近くの参加がありました。笹岡会長の挨拶による開会式の後、ステージ発表ではカラオケ・詩吟・小学生による「キッズソーラン」・「ふるさと」の合唱など、みなさんの元気な姿に喜びを分かち合いました。その間に、別室での展



小学生の「キッズソーラン」

示発表では、皆さん所有の美術品や工芸品、さらに自作の作品を鑑賞させていただきました。また、茶道同好会の方々のお点前により茶も楽しませていただきました。

その後、全員で輪投げ競技を行い、昼食は鉄鍋で調理したカレーライスをおいしさも増し、お替りも続出でした。昼食後は輪投げの表彰、その後全員でビンゴゲームを行い、行事は終了しました。参加・出場された皆さん、ふれあい部中川部長をはじめ、多くの役員の方々のご尽力に感謝いたします。最後に、小学生の皆さん、可愛い踊りありがとう。(担当T.K)

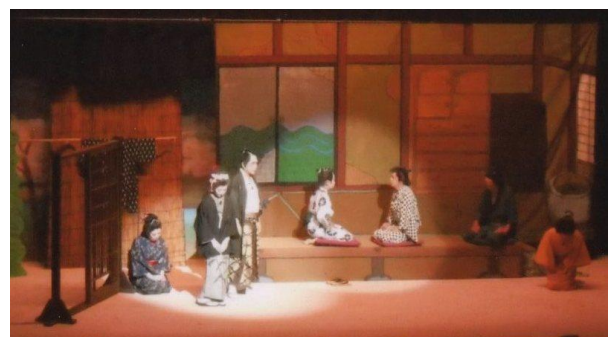


盛りあがった輪投げ競技

## 11/2(土) 向原地域敬老会

11月2日(土)、地元向原に完成した生涯学習センター「みらい」で開催されました。開催挨拶の後、向原こぼと園児による『こぼと太鼓』、向原小学校6年生による『さくら太鼓』、向原中学校1年生による『丸山太鼓』、向原高校生徒の『日之原太鼓』が演奏され、次いで、安芸長田明神一座による人情時代劇『銀平子別れ情話』が上演されました。

「みらい」新築後初めての披露ということもあり、各団体とも熱演され、参加された皆さんはとても楽しんでおられました。今年も、長田下地域の皆さんはこの会を楽しみにされているようで、他地域よりも大変多くの方々に参加していただきました。(担当K.M)



安芸長田明神一座による『銀平子別れ情話』

# 11/30(土)

## 2013 年度人間ホール

ひとは福社会恒例の人間ホールは、新装となった生涯学習センターみらいで実施されました。テーマは「つながり」です。ポスターには児玉尊子さんの作品が彩りを添えました。

振興会としては、いつも通り「食」のブースを担当しました。幸いにも好天に恵まれ「食」はすべて完売という盛況ぶりでした。

ホール内では、小学生、中学生をはじめ多彩な催しが行われ、地域全体がつながっている雰囲気が強く感じられました。

いつの時代になっても「お互い様」の心根は大切にしたいものです。

(担当 B. T)



# 1/11(土)

## 長田五区のとんど

1月11日(土) 9時から、みんなが集まり竹を集め、10時半頃にはほとんどできあがりしました。その後家に帰り、とんどの準備をして11時50分頃に集まり、12時に点火しました。今年ほうまく燃えて、煙が少なくすごい勢いで炎が上がりました。

今年のとんどでは、嬉しいことがありました。2～3歳の孫たちが5人も揃ったのです。(写真)孫たちは、とんどのお餅よりおつまみの「いりこ」の方が大好きで、「いりこ」を何匹も食べました。可愛かったです。

ただ、今年も竹を集めに来た子は一人でした。「もうちょっとしたら、とんどもできんようになるよのう。」という声を聞きました。そんな時、ある人が「そんなことはない。ずっと続けられるよ。みんなで竹を集めるのが難しくなったら、有志が集まり何日か前から竹を集め、ぜんざいもその有志で作ったらいい。心配することはない。」というのです。私もその通りだと思いました。そこで五区では、そんな有志の会を作ろうということになりました。

もう一ついいことを教えます。とんどの翌日、残り火で焼き芋をすると、最高においしいです。大きな芋でも一時間もするとできあがります。

(担当 Y. H)



## 「下長田地区の文化財保護と伝承」について考える⑩

今回は、尼子三兄弟ゆかりの墓所の真下にある「円明寺跡」をたずねることにしました。（古地図には、「圓明寺」とか「延命寺」と書いたものもあります。）

円明寺（向原町誌には、「円」の字が使われているので、私たちもそう表記する）は、皆さんご存じのとおり、山陰の覇者 尼子氏が、毛利氏との長い攻防の末、永禄9年（1566年）11月、ついに毛利氏に降伏し、尼子晴久の子（義久、倫久、秀久）、つまり尼子三兄弟がとらわれの身となり、家来衆20数名とともに、同年12月14日、この長田の地に到着、ただちに幽閉されたところでした。

今は、写真のように、跡かたもありませんが、円明寺跡に立ってみますと、敷地の広さがおよそ200坪以上もあり、大きな寺院の建っていたことが想像できます。この地で、3名の有名な尼子の武将や多くの従者たちが、内藤氏の厳重な監視の元で、23年もの長い間、軟禁されていたのです。

のちには、厳しい監視もゆるめられたようですが、前号で紹介した「茶臼山城」も、尼子氏監視のために建てられたものです。

ついでながら、茶臼山城のある山の尾根伝いに数百m登ったところに、田屋城主内藤氏の祈願所と言われる旧円明寺跡（標高330m）も残っています。立木におおわれ、全体を見通すことはできませんでしたが、広い敷地や大きな礎石の跡（下の写真を参照）をたどると、本堂の大きさが60坪以上あった計算になり、壮大な寺院が建っていたことになります。尼子三兄弟ゆかりの墓所下の新円明寺も、旧寺に準じた大きな寺だったことでしょう。



探索隊・・・この奥が跡地



礎石

道案内をしてくださった近所の人の話では、旧円明寺への登山道は、昔から吉田の町に通じる道（往還道）があり、昭和の初めまで、長田の人も通行していたそうです。新旧の円明寺跡地に立ってみますと、昔がしのばれ、当時を空想させられます。

なお、尼子三兄弟ゆかりの墓所は、いつも美しく清掃され、訪れる人が感動していますが、円明寺の立て看板の字は薄れており、補修しなくてはいけないなど感じました。

（担当 F. T）

# 下長田人物伝(4)

今回は生粋のお祭り男、長田6区の吉元光幸さんにお話を伺いました。

昭和8年5人姉弟の三番目の長男としてお生まれになりました。子どもの頃から運動神経抜群！小学校の土俵で相撲を取ったり駅伝の選手でも活躍されたそうです。夏の遊び場だった三篠川は自然豊かな川でズガニが山ほど取れ、橋から飛び込みもできたそうですが、昭和20年の豪雨で橋という橋がみんな流されたそうです。冬の楽しみは「とんど」だったそうです。竹をひいてくるのが子どもの仕事で、当時貴重だった竹を大人が切り12月ごろから準備をしていたそうです。けっして多くない楽しみを全力で楽しまれていた様子は今では羨ましくもあります。



お祖父さんの代から笛や太鼓をされていて、笛やお囃子は耳で覚えたそうですが昭和15年9月15日の神祇で初めてお父さんから太鼓を教えてもらったそうです。古くは養泉寺、下長田では長円寺のちに4区も加わり真徳寺で夜通し盆踊りが行われていました。30年前、「三つ拍子」や「いろは口説き」、「手踊り」、「長田音頭」(2区の方が作られ谷林文男さんへで伝承)などを明神クラブに教えられています。獅子舞に向け毎夏集会所で笛を指導して下さっていますが、以前は個人のお宅や昭和32, 3年ごろは、ひとは館横に会館があり練習されていたそうです。ひと昔前の子どもたちは涙を流して覚えていたそうです。今の子どもたちもがんばれ！！



長田・青年団の村芝居 S33年秋祭り

真徳寺建立の際には大工で携われました。地元の人々が木材を寄付されたそうです。戦前の村芝居は真徳寺で行われていたそうで「一本刀土俵入り」などの写真も拝見しました。昭和33年で村芝居は途切れましたが、平成10年に安芸長田明神一座により復活しました。

グランドゴルフは町内で1, 2位の腕前の吉元さんですが、50歳のときには大病をされました。自分のペースで楽しむこと、そして一杯飲めるのが何よりの健康バロメーターだそうです。

長田神社の露店、麦わら船を流したおかげんさんに花田植えなど、懐かしい話は尽きませんでした。そして、本気で好きなことに打ち込める子どもたちが育ってほしいとお話を伺っていて思いました。街へ出ている父親世代が多く伝統継承が難しい現在、貴重な存在の吉元さんこれからもご指導のほどよろしくお願ひします。

(担当T.K)